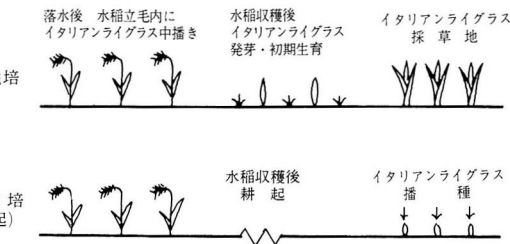


イタリアンライグラスの中播き栽培

雪印種苗中央研究農場 橋爪 健

水稻立毛内へのイタリアンライグラス中播き



前作暖地型牧草立毛内へのイタリアンライグラス中播き

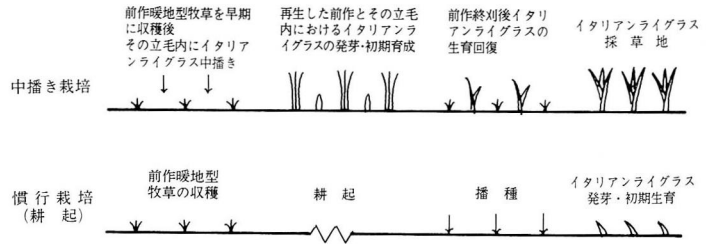


図1 中播き栽培と慣行（耕起）栽培との比較

夏作→冬作牧草類への切換え方式の一つに、**省力的連続栽培**が可能な“中播き”があります。“中播き”とは、既にご紹介いたしました（本誌27巻—8月号）、前作立毛内に牧草類を不耕起で播種することを意味します（図1）。イタリアンライグラスは、牧草類の中で、最も耐陰性が強く、発芽・初期生育の良好な中播きに適した作物です。以下にその栽培法をご紹介します。

1. イタリアンライグラスの品種は数多くありますが、
 - ① 翌春、水稻・トウモロコシ・暖地型牧草を栽培予定でしたら、早生のミナミワセ、ワセユタカを。
 - ② 積雪地帯では、雪腐病に強いヒタチアオバマンモスA、エースを。
 - ③ 翌年7月過ぎまでの収量を期待するのでしたら、越夏性抜群のマンモスA・エース等の品種が最適です。
2. 定着数確保のため、播種量は慣行の**2倍**（4kg/10a）とし、播種後、レーキ等で軽い地表処理を実施します。

3. 播種適期は**9月下旬から10月上旬**です。
4. 施肥は、N・P・K：各**10kg/10a**を、中播き後20日めに重点をおいて**分施**します。
5. 中播き作物の定着・初期生育の向上をはかるため、前作立毛内の光量を露地の**1/5以上**に保ちます。一つの方法として、中播き後、**20日前後の掃除刈**が有効です。（水稻トウモロコシには不要です）。

福岡県では、図2のような作付体系で、ローズグラス：1.5ton/10a、イタリアンライグラス：1.8ton/10a、合計3.2ton/10aの風乾収量（生草換算で20ton/10a）が期待できるといわれています。

このような省力的連続栽培を経営内に積極的に取り入れ、自給飼料の生産基盤を確立し、変動する酪農情勢をのりきりましょう！

(作物)	ローズグラス→イタリアンライグラス→ローズグラス
(品種・系統)	早生品種・系統 早生品種・系統 早生品種・系統
(播種期)	5月下旬～6月上旬 10月上旬 5月下旬～6月上旬
(播種量)	1kg/10a 4kg/10a 1kg/10a
(播種法)	耕起 不耕起追播 耕起
	(堆きゅう肥多量還元) (堆きゅう肥多量還元)

図2 ローズグラス・イタリアンライグラスの作付体系 平川ら：福岡県農試(1973)

表1 イタリアンライグラスの品種および特性表（9/19播種）

No.	品 種	早晚性	出穂期	生 育 期 間	生 草 収 量 (kg/a)									適 応 性
					10/22	3/10	4/14	5/14	6/13	7/13	9/14	合計		
1	ミナミワセ	極早生	4/8	極短期	69	229	106	106	28	—	—	538	暖地型牧草立毛内への中播き栽培 翌春の早期水稻・早植水稻・青刈トウモロコシ等の夏作物との組合せ栽培	
2	ワセユタカ	早 生	4/21	準短期	79	190	219	209	94	36	—	827	暖地型牧草立毛内または稲間中播き栽培 西南暖地の水田裏作	
3	ワセアオバ	早 生	4/23	中 期	60	184	199	181	83	34	—	741	新潟関東以南の水田裏作	
4	ヒタチアオバ	晩 生	5/12	中 期	80	187	258	271	141	87	9	1,033	関東以西で収量が高い 広域に適し、雪腐病にも強い	
5	ヤマアオバ	晩 生	5/13	準長期	62	179	253	226	115	74	13	922	関東以西、とくに冠サビ病多発地帯に適	
6	マンモスA	晩 生	5/9	極長期	70	152	236	285	151	117	31	1,042	東北以南の水田裏作・畑作の秋播き栽培	
7	マンモスB	晩 生	5/8	中 期	84	198	233	236	129	89	5	974	北海道での春播き栽培	

山口県農試牧草育種研究室：昭和50年度牧草育種試験成績書（1976）より作成
当社育成品種のエースは、マンモスAに比べて、7%増（乾物収量）の優れた成績が得られております（山口県農試・昭52）。